

漢越語の形態統語的特徴：特殊な文法的特徴は借用されるのか？

高橋 康德

神戸大学

ytakahashi@port.kobe-u.ac.jp

要旨

中国語からベトナム語に借用された漢越語は、ベトナム語の語彙体系のかなりの割合を占める。漢越語の文法的な特徴に関する研究は、主に機能語の分類とその文法化過程を考察するものが多いが、「現代のベトナム語話者がどのような共時的知識を有しているのか」という問題はほとんど考察されていない。本研究では、中国語の離合詞に対応する漢越語がどのような文法的特徴を有しているのかを分析し、上記の問題にアプローチする。中国語の離合詞は、語の中間に別の要素を挿入可能であるという特徴と直接目的語を取らないという制約を持つが、対応する漢越語は前者の特徴をほぼ失っているのに対して、後者の制約は一定程度維持する。つまり、離合詞の文法的特徴は一律に失われるのではなく、失われやすい特徴と維持されやすい特徴の区別があることが調査結果から示唆される。

1. ベトナム語の語彙体系と漢越語

ベトナム語はベトナム社会主義共和国の国語であり、オーストロアジア語族モン・クメール語派に属している。ベトナムは漢代から千年以上（紀元前 111 年～紀元 939 年）中国の支配下にあり、独立後も漢字文化圏に属し科挙や儒教など中国の文化を多く吸収した。そのため、ベトナム語にも中国語からの影響が多く見受けられる。Shimizu (2017)ではベトナム語における中国語の影響を語彙（中国語からの借用語、すなわち漢越語）、書記体系（チュノム）、歴史的音韻論（音節構造の変化や声調の発生）、文法（機能語の発達）の4つのレベルに分けて解説している。ベトナム語の語彙体系における漢越語の位置付けについては Mark Alves の一連の研究が詳しい（Alves 2007ab, 2009, 2017 など）。概説的な Alves (2017: 586-587)によると、漢越語は主要な品詞や意味分野（例えば、食事・衣類・農業・社会・政治・法律・感情など）に含まれており、歴史的には漢代から始まる話し言葉を通じた借用、唐代以降の書き言葉を通じた借用、現代（19 世以降）の書き言葉を通じた借用（和製漢語も含む）の3つの層に区分される¹。ベトナム語における借用語の割合については、Alves (2009)が複数の辞書（含むオンライン辞書）や再構資料などに基づいたデータベースを用いて網羅的に調査している。調査結果によると、調査サンプル（1477 語）のうち 28%（415 語）が借用語の可能性が高く²、借用元は中国語が 90%以上を占め、残り 4%がフランス語、3%がタイ系言語、それに加えて少数の英語とチャム語を含む。また、中国語からの借用語のうち約 30%の語は口語的な言語接触³を通して借用された一方で、約 70%の語は唐末以降に書記言語を通して借用さ

¹ また、現代では広東語を主とした中国語方言から語彙の借用が起きたことも Alves (2017)は指摘する。

² それとは別に 2%の語が借用語の可能性はある。

³ これらの口語的な接触は、ベトナムの主要都市に大きな中国人コミュニティが存在した漢代と現代に行われたと Alves は指摘する。

れたと Alves は主張する。

音韻面における中国語の影響としては、古代における音節構造の変化 (sesquisyllabic から monosyllabic へ) や声調の発生などが挙げられる (Martisoff 2001 などを参照)。

文法における中国語の影響は、語彙や音韻などと比べると弱いことが先行研究 (Alves 2009 など) で指摘されている。Alves (2009) は「文法的な借用 (syntactic borrowing)」の例として名詞句内部の構成素の順序が「数詞+類別詞+名詞」と中国語と一致する点を挙げるが、それ以上に漢越語における機能語 (Alves は“grammatical vocabulary”と呼ぶ) に注目している。この問題を詳細に扱った Alves (2007a: 218) では、漢越語の機能語を【1】中国語の機能語がベトナム語にそのまま入って変化していないもの、【2】ベトナム語に入ってから文法化を起し、中国語とは異なる文法機能を有しているもの、【3】ベトナム語に入ってから文法化を起していないが (中国語とは異なる) 特殊な文法機能を持つようになったものの3種類に分類する。【1】の例としては接続詞 *nhưng* <仍> 「しかし」、*tuy* <雖> 「とはいえ」、*thậm chí* <甚至> 「さえも」などがあり、中国語とベトナム語で同じ文法機能を有している。一方、【2】と【3】は Alves (2007a) が挙げた例の中では厳密に区別されていないが、「中国語には無い文法機能を持つ漢越語」として最上級を表す *nhất* <一> 「最も」や原因を表す *tại* <在> 「なぜなら」、代名詞の構成要素として使われる *chúng* <衆> 「(3人称) 複数」などが挙げられている。

鷺澤 (2019) はベトナム語の機能語の文法化過程を詳細に分析している。考察対象にした4語 (*của, sự, không, bị*) のうち3語は中国語由来 (*sự* <事>, *không* <空>, *bị* <被>) である。16世紀から19世紀までの文献における上記の語の使用例を分析することで、18世紀後半から19世紀前半 (*không, bị*) または19世紀末以降 (*của, sự*) に機能語としての用例が増えたと鷺澤は主張する。

以上見てきたように、統語面における中国語の影響に関する研究は機能語の分類と文法化過程の考察を中心としており、言語類型論的な文法化の枠組みを視野に入れた研究も少なくない。その一方で、「現代のベトナム語母語話者が漢越語の文法的特徴に関してどのような共時的知識を有しているのか」という問題はほとんど考察されていない。そこで本研究では、「中国語で特殊な文法的特徴を持つ語彙がベトナム語に借用された場合、その特徴が維持されるのか」を分析することで、ベトナム語母語話者が持つ漢越語に関する共時的知識の初期的な考察を行いたい。本研究が考察対象にするのは中国語で「離合詞」と呼ばれる語彙クラスである。

2. 中国語の離合詞

中国語の離合詞に関する先行研究は非常に多い⁴。本研究では個々の離合詞の文法的振る舞いではなく語彙クラスとしての全体的な振る舞いに焦点を当てるが、この視点から詳細に離合詞を考察した研究としては Li & Thompson (1981) が挙げられる。Li & Thompson は離合詞 (verb-object compound) を「動詞と直接目的語の文法関係を持つ2つの構成素から成る」と定義した上で、動詞句ではなく複合語と判断するための3つの基準を提案する。

⁴ 王俊 (2017) の第一章には主に中国で行われた離合詞研究の網羅的なレビューがある。

(1) 動詞＋名詞構造を複合語と判断するための基準 (Li & Thompson 1981: 73)

- a. 少なくとも1つの構成素は拘束形態素である。
- b. 語全体の意味が構成的でない (= idiomaticity がある)。
- c. 構成素間の分離ができない、または分離に制限がある。

ここで注意をしたいのは、Li & Thompson は上記の全ての基準を満たす必要はなく1つでも満たせば複合語 (つまり離合詞) とみなしている点である。また、構成的ではない意味(1b)と分離可能性(1c)は個々の離合詞で程度の違いがあるため、二値的 (あり/なし) ではなく連続体として捉えている。具体例として「睡覺 (眠る)」を見てみよう。この語は2番目の構成素「覺」が拘束形態素であり、前後どちらの形態素も「眠る」という意味を持つ。また、語を形成する2つの形態素間の分離には実質的な制限はなく、以下のような要素を挿入可能である。

(2) 離合詞「睡覺 (眠る)」に挿入可能な要素の例

- a. 数詞「一」: 睡 一 覺 「ちょっと寝る」
- b. 完了のアスペクトマーカ―「了」: 我 睡 了 覺 了 「私はもう寝た⁵」

Li & Thompson によると、中国語の離合詞の大多数は分離可能でありアスペクトマーカ―や数量表現などが挿入できる。

(3) 離合詞に挿入される要素 (Li & Thompson 1981: 75)

- a. アスペクトマーカ― (離合詞「理髮」, 経験のマーカ―「過」)
他 還 沒 理 過 髮 「彼は髪を切ったことがない」
3sg still not arrange EXP hair
- b. 数量表現 (離合詞「行禮」(お辞儀する), 完了のマーカ―「了」, 量詞「個」)
他 給 我 行 了 一 個 禮 「彼は私に一回お辞儀した」
3sg to I perform PF one CL salutation

また、Li & Thompson は大多数の離合詞で直接目的語が後続できないことも重要な特徴であると主張する。直接目的語に当たる語を加える場合には(4a)のように介詞構造を用いるか、(4b)のように属格「的」を伴って離合詞の第二要素に先行させる必要がある。ただし、丸山・韓 (2018)は「留學」や「出席」など一部の離合詞は目的語が後続可能な環境があることを指摘している。

(4) 離合詞が直接目的語に当たる語を取る方法 (Li & Thompson 1981: 76-77)

- a. 介詞構造 (離合詞「照相」(写真を撮る), 介詞「給」(～に))
我 給 他 照相 「私は彼に写真を撮った」
I to 3sg photograph

⁵ 原文の英語訳は “I’ve slept”

b. 属格表現「的」(離合詞「生氣」(怒る))

你 別 生 他 的 氣 「あなたは彼に腹を立てないで」
you don't grow 3sg GEN angry

近年出版された中国語参照文法の Huang & Shi (2016: 76)は、離合詞(英文中でも *li2he2ci2* と呼ぶ)を基本的には1つ以上の拘束形態素を有する語と見なすが、一部の環境(別の要素が挿入される環境)では自由形態素として統語的に再分析されて句として振る舞うという二重の性格(dual identity)を持つと解釈する。

以上見てきたように、中国語の離合詞は語と句の中間的な振る舞いをするが、対応する漢越語でもその特徴は維持されるのだろうか。後述するように離合詞と対応する漢越語は辞書でも実際の発話でも多く観察されるが、その文法的特徴を論じた研究は筆者が確認する限り存在しない⁶。そこで、本研究では離合詞と対応する漢越語の文法的特徴を調査し、上記の問題を考察する。

3. 調査方法

3.1. 調査協力者

調査協力者はハノイ市ホアンキエム区出身のベトナム語ハノイ方言母語話者1名(30代女性)である。2019年春まで日本に6年間滞在し、留学(日本語学校・専門学校)および就労経験がある。そのため、日本語を話すことができる。調査は2019年8月にハノイ市で行なった。

3.2. 調査対象の語

調査対象とする離合詞の確定には周上之(2011)『漢語常用離合詞用法辞典』を使用した。この辞典には268個の離合詞が収められており、それぞれに意味や文法機能、挿入可能な要素についての説明と例文が与えられている。まず、筆者は上記辞典に収められている全ての語について、対応する漢越語が川本(2011)『詳解ベトナム語辞典』に辞書項目として記載されているかを調べた。その結果、268語中91語(34%)が辞書項目として載っていることが判明した。次に、上記91語を漢字からベトナム語のアルファベット表記(クオックグー)に変換した上で調査協力者に提示し、それぞれの語を【a】よく使う、【b】知っているがあまり使わない、【c】知らないの3つに分類してもらった。その結果、【a】よく使う語として49語(全体の18.3%)が残った。49語の内訳を次ページ冒頭の表1に示す。本研究ではこの49語を考察対象として扱う。

3.3. 調査手順

考察対象の49語に対して【1】(5)で示す3種類の語を中間に挿入可能か、【2】目的語に該当する語を後続させることが可能かを調査協力者に尋ねた。(5)の語は動詞+目的語構造を持つ句の中間に挿入可能な要素であり、語の分離可能性を検証するために利用可能であると筆者は判断した。調査の際は基本的にベトナム語を用いたが、お互いの発話の意図が理解できない場合は日本語を適宜使用した。

⁶ 予稿執筆段階で筆者がアクセスできるベトナム語の文法書(Thompson 1965, Nguyễn Chí Hoà 2006 など)にはこの点についての言及はない。ただし、昨今の新型コロナウイルス感染拡大に伴う国内・海外移動の制限のためベトナム語文献に関しては全て確認できていない。今後の課題である。

表 1. 考察対象の 49 語（上段は漢字、下段はクオックグー、下線部は脚注 7 参照）

安心 an tâm	罷工 bãi công	保密 bảo mật	報名 báo danh	<u>卒業</u> tốt nghiệp	閉幕 bế mạc	變形 biến hình
變質 biến chất	出境 xuất cảnh	出院 xuất viện	辭職 từ chức	點名 điểm danh	訂婚 đính hôn	發病 phát bệnh
發財 phát tài	發電 phát điện	發火 phát hoả	犯法 phạm pháp	犯罪 phạm tội	分工 phân công	分類 phân loại
告狀 cáo trạng	加工 gia công	結婚 kết hôn	開口 khai khẩu	開幕 khai mạc	離婚 ly hôn	練兵 luyện binh
留心 lưu tâm	留意 lưu ý	露面 lộ diện	命名 mệnh danh	破產 phá sản	讓步 nhượng bộ	入境 nhập cảnh
入學 nhập học	傷心 thương tâm	生病 sinh bệnh	失學 thất học	失業 thất nghiệp	施工 thi công	通信 thông tin
行軍 hành quân	宣誓 tuyên thệ	用功 dụng công	造反 tạo phản	招生 chiêu sinh	值班 trực ban	<u>入院</u> nhập viện

(5) 中間に挿入を試みる語（例文は Thompson 1965: 268, 345, 347）

a. được : 動詞に後置して「可能」「良い結果」の意味を表す。

Ông ấy mua *được* một ngôi nhà to.
he buy GR one CL house big
「彼は大きな家を（首尾よく）買った」

b. lại : 動詞に後置すると「再び～する」「続けて～する」の意味を表す。

Lúc bạn tôi ra Hà Nội, tôi ở *lại* Sài Gòn làm việc.
when friend I go Hanoi I in again Saigon do thing
「私の友人がハノイに行った時、私はサイゴンにとどまり仕事をした」

c. hết or xong : 動詞に後置して「終了」を表す。

Anh ấy tiêu *hết* cả tiền rồi.
he consume finish all money PF
「彼は全てのお金を使い果たした」

4. 調査結果

4.1. 語の中間への要素の挿入

表 2 では、考察対象の 49 語の中間に(5)の語が挿入可能かを尋ねた結果を示す。回答にある「使用不可」とは、考察対象の語と挿入する語の間で意味の矛盾などが起きてしまうために組み合わせ

⁷ 周上之 (2011)には「卒業する」は「畢業」,「入院する」は「住院」とあるが、ベトナム語ではそれぞれ“tốt nghiệp”「卒業」,“nhập viện”「入院」が一般的に用いられる。この 2 組の語は中越どちらでも「動詞+目的語」という共通の構造を持つため、本調査ではベトナムで一般的な後者の語を採用した。

ることができないという回答を得た語である。例えば, *phát bệnh* <発病>は基本的に悪い出来事なので「良い結果」の意味を含む“*được*”とは組み合わせられないという回答を得た。

表 2. 構成素間への要素の挿入に関する回答

	挿入可能	不可能	使用不可
<i>được</i>	1	19	29
<i>lại</i>	0	31	18
<i>hết or xong</i>	0	14	35

表 2 を見ると、語の中間に他の要素を挿入することがほぼ不可能なことが分かる。ただし、“*phát điện*”<発電>だけは“*được*”を挿入可能という回答を得た。(6)は調査協力者が作成した例文である。

- (6) *Cái máy này phát được điện* 「この機械は発電することができる」
 CL machine this generate possible electricity

4.2. 目的語の後続

次に、目的語が後続できるのかを尋ねた結果を表 3、回答の具体例を(7)に示す。表 3 を見ると、約 45%に当たる 22 語では目的語が後続可能であり、句や節であれば後続可能である語が 2 語あった。一方、目的語が取れない、もしくは前置詞がないと目的語を取れない語も約半数ある。

表 3. 目的語の後続可能性に関する回答

可能	句や節は可能	前置詞が必要	不可能
22	2	9	16

(7) 表 2 で示した各回答の具体例

- 目的語が後続可能：***tốt nghiệp*** <卒業> *đại học*
graduate university 「大学を卒業する」
- 句や節が後続可能：***dụng công*** <用功> *luyện tập bóng đá*
do the best practice football
「サッカーを練習するのに力を尽くす」
- 前置詞を必要とする：***đính hôn*** <訂婚> *với anh ấy* 「彼と婚約する」
get engaged with he
- 後続不可能：***phát tài*** <發財> 「財を築く」、***biến chất*** <變質> 「変質する」など

5. 考察

前節の調査結果を踏まえた上で、離合詞と対応する漢越語の形態統語的特徴を考察しよう。まず 4.1 節の結果から、調査対象の漢越語は形態素間の分離がほぼ不可能であることが分かった。第 2

節で述べたように中国の離合詞は「語と句の中間的な特性」を持つ点で特徴的であったが、対応する漢越語では句的特性が失われており「語」としての振る舞いが強くなっている。

一方、4.2 節の結果からは、目的語が後続することへの制約が離合詞と対応する漢越語でも一定程度働いていると解釈できる。前述したように中国語の離合詞はごく一部の語を除いて目的語を後続して取ることができないが、考察対象の漢越語でも約半数の語が同様の特徴を有していた。ただし、4 割以上の語では目的語が後続可能であることを踏まえると、この制約は中国語ほど強力ではない。

以上の考察を総合すると、中国語の離合詞はベトナム語に入ったのち、その文法的特徴（語と句の中間的な特徴、目的語を後続しない特徴）に対照的な変化が起こったと推測できる。前者の特徴はベトナム語ではほぼ失われたのに対して、後者の特徴は一定程度維持されている。Alves (2007b: 343)は「中国語諸方言に典型的な文法的特徴の多くは、ベトナム語の文法には存在しない」と述べているが、全ての特徴が一律に失われるわけではなく、失われやすい特徴と維持されやすい特徴の区別があることが本研究の調査結果から示唆される。

今後の課題として、個別の語を対象とした詳細な分析、文献などを用いた通時的な観点からの検証、類似の構造を持つ固有語の文法的特徴との比較を行う必要がある。

謝辞

本稿を作成するには山岡翔氏（京都大学大学院）から多くの有益なコメントをいただきました。また、本研究は科研費（18K12371, 17H02331）の補助を受けている。

<参考文献> Alves, Mark. 2007a. Categories of grammatical Sino-Vietnamese vocabulary. *Mon-Khmer Studies* 37: 217-229. Alves, Mark. 2007b. Sino-Vietnamese grammatical borrowing: an overview. Yaron Matras & Jeanette Sakel, eds. *Grammatical Borrowing in Cross-Linguistic Perspective*, pp. 343-362. Mouton de Gruyter. Alves, Mark. 2009. Loanwords in Vietnamese. Martin Haspelmath and Uri Tadmor, eds. *Loanwords in the World's Languages: A Comparative Handbook*, pp. 617-637. Mouton de Gruyter. Alves, Mark. 2017. Chinese loanwords in Vietnamese. Rint Sybesma, Wolfgang Behr, Yueguo Gu, Zev Handel, C.-T. James Huang & James Myers, eds. *Encyclopedia of Chinese Language and Linguistics*, pp. 585-592. Brill. Huang, Chu-ren & Dingxu Shi, eds. 2016. *A Reference Grammar of Chinese*. Cambridge University Press. 川本邦衛 編. 2011. 『詳解ベトナム語辞典』. 大修館. Li, Charles & Sandra Thompson. 1981. *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*. University of California Press. Martisoff, James. 2001. Genetic versus contact relationship: prosodic diffusibility in South-East Asian languages. Alexandra Aikhenvald & R. M. W. Dixon, eds. *Areal Diffusion and Genetic Inheritance: Problems in Comparative Linguistics*, pp. 291-327. Oxford University Press. 丸山誠・韓涛. 2018. 中国語の離合詞の用法について -動詞“留学”をめぐる問題-. 『名古屋大学人文学研究論集』1: 129-145. Nguyễn Chí Hoà. 2006. *Ngữ pháp tiếng Việt thực hành*. Nhà Xuất Bản Đại Học Quốc Gia Hà Nội. Shimizu, Masaaki. 2017. Chinese and Vietnamese. Rint Sybesma, Wolfgang Behr, Yueguo Gu, Zev Handel, C.-T. James Huang & James Myers, eds. *Encyclopedia of Chinese Language and Linguistics*, pp. 389-392. Brill. Thompson, Laurence. 1965. *A Vietnamese Reference Grammar*. University of Washington Press. 王俊. 2017. 『现代汉语离合词研究』. 东北师范大学出版社. 鷲澤拓也. 2019. ベトナム語の機能語 của, sự, không, bị の文法化過程 -16～19 世紀の文献から-. 『東京大学言語学論集』41: 367-392. 周上之. 2011. 『汉语常用离合词用法词典』. 北京语言出版社.